

Andrew John Wiles  
アンドリュー・ワイルズ



数理学科4688  
加賀尾 翔

<http://ja.wikipedia.org/wiki/アンドリュー・ワイルズ>

# 経歴

生誕 1953年 4月11日 (61歳)

10歳でフェルマーの最終定理に出会う.

ケンブリッジ大学卒業.

大学院で、ジョン・コーツの指導下のもと岩澤理論と楕円曲線論の研究.

フェルマーの最終定理の証明.

現在オックスフォード大学教授(整数論).

<http://ja.wikipedia.org/wiki/アンドリュー・ワイルズ>

# ワイルズの弟子

カール・ルービン ……楕円曲線のテイト・シャファレヴィッチ群が有限になる例を初めて構成した.

ブライアン・コンラッド ……ワイルズの方法を拡張して谷山・志村予想に完全な証明を与えた.

リチャード・テイラー ……谷山・志村予想、局所ラングランズ予想の証明で著名

クリストファー・スキナー ……岩澤理論において貢献がある

マンジュル・バルガヴァ ……2次形式論で著名

# フェルマーの最終定理

$n > 2$ の自然数 $n$ について

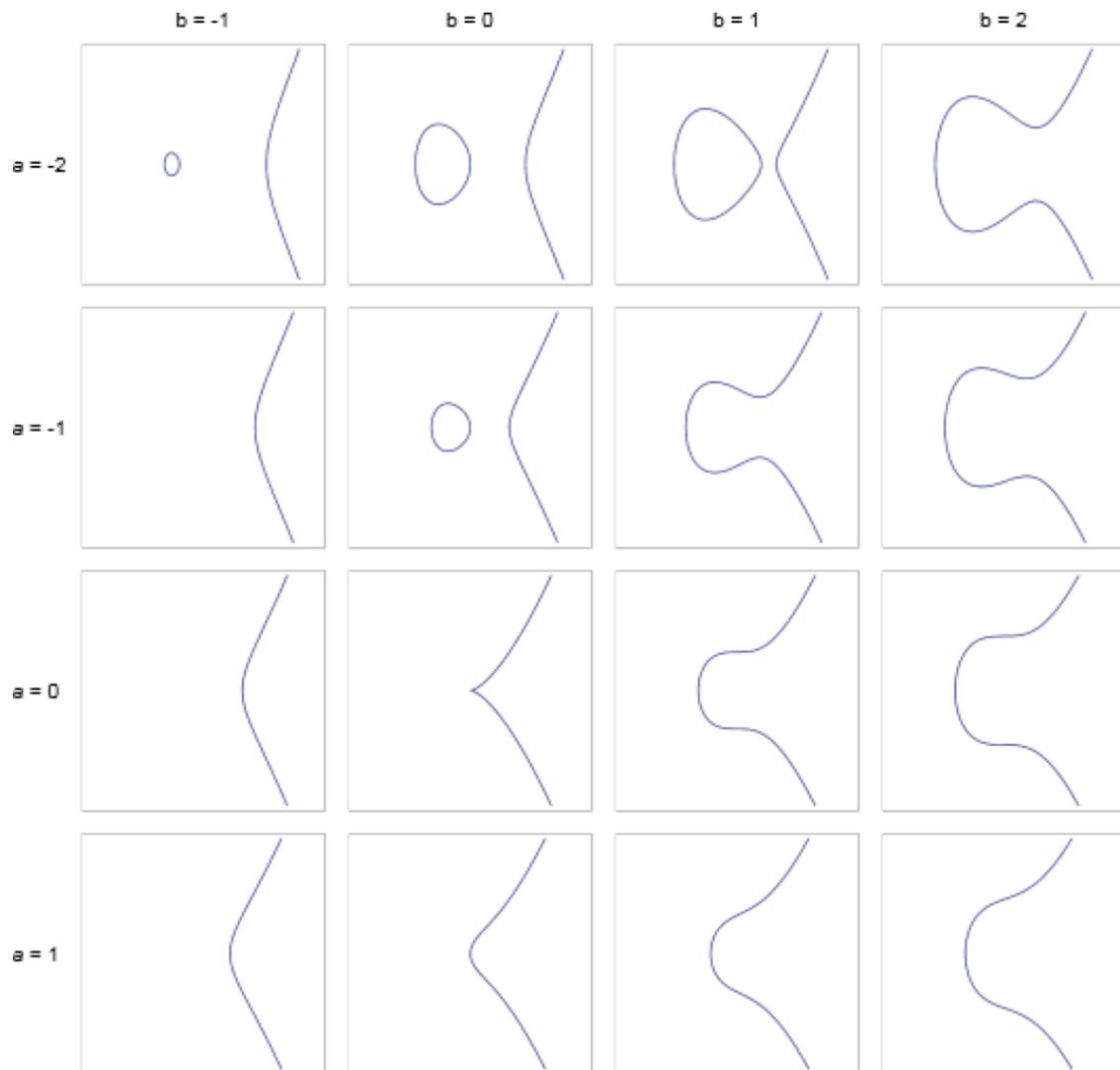
$$x^n + y^n = z^n$$

を満たす0でない $x, y, z$ の自然数の組は存在しない

<<これを証明した>>

# 楕円曲線論 (フェルマーの最終定理の証明に用いた)

$$y^2 = x^3 + ax + b$$



# 岩沢理論 (フェルマーの最終定理の証明に用いた)

$p$  を素数とし、 $k_n$  を塔とする  $k$  の  $z_p$  拡大  $L$  に対し、 $k_n$  のイデアル類群の  $p$ -部分  $l_n$  (これは有限  $p$  群だから位数は  $p$  の冪である) の位数の  $p$  の冪指数を  $e_n$  とするとき、適当な正の数  $\mu, \lambda$  と実数  $v$  および十分大きな  $n$  をとれば

$$e_n = \mu p^n + \lambda n + v$$

と表す。